

2025

SUPER FORMULA
RACE REPORT

Rd.10-11-12

11.21 [fri] - 23 [sun]

[place] 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)

[weather] sat 晴れ / sun 晴れ

[spectators] 69,200人 (fri 5,200人 / sat 28,000人 / sun 36,000人)

SUZUKA CIRCUIT

Rd.1-2 SUZUKA CIRCUIT >>>>>>>>>>>> MAR 07-09

Rd.3-4 MOBILITY RESORT MOTEGI >>> APR 18-20

Rd.5 AUTOPOLIS >>>>>>>>>>>> MAY 17-18

Rd.6-7 FUJI SPEEDWAY >>>>>>>>>>>> JUL 18-20

Rd.8 Sportsland SUGO >>>>>>>>>>>> AUG 09-10

Rd.9 FUJI SPEEDWAY >>>>>>>>>>>> OCT 10-12

Rd.10-11-12 SUZUKA CIRCUIT >>>>>>>>>>>> NOV 21-23



TGR-DC
TGR Driver Challenge Program

3連戦となった最終鈴鹿大会で躍進！
2台ともにQ2進出を果たし、
小高一斗がRound12で11位に入る。



瑠子女王杯 2025 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round10・11・12『第24回 JAF 鈴鹿グランプリ』が11月22日(土)・23日(日)に鈴鹿サーキットで行われた。濃霧によりキャンセルとなったRound10の決勝が今大会で代替開催され、2日間で3レースを行う異例のスケジュールのなか、KDDI TGMGP TGR-DCは今季一番の走りを披露。Round11では小高一斗、Round12では野中誠太がQ2進出を果たし、Round12決勝では、小高が入賞まであと一歩となる11位でレースを終えた。

KDDI TGMGP TGR-DC **KAZUTO KOTAKA**
28 Driver **小高 一斗**

	Rd.10	Rd.11	Rd.12
決勝	16位	予選 10位 決勝 DNS	予選 14位 決勝 11位
Rd.10	決勝	P16 / 1'40.879 ※濃霧中止となった10月富士大会の代替戦	
Rd.11	予選 Q1	P5 (B Gr) / 1'37.066	
	予選 Q2	P10 / 1'36.962	
Rd.12	決勝	DNS	
	予選 Q1	P7 (B Gr) / 1'37.026	
	予選 Q2	-	
	決勝	P11 / 1'41.274	

KDDI TGMGP TGR-DC **SEITA NONAKA**
29 Driver **野中 誠太**

	Rd.10	Rd.11	Rd.12
決勝	18位	予選 16位 決勝 16位	予選 11位 決勝 DNF
Rd.10	決勝	P18 / 1'41.230 ※濃霧中止となった10月富士大会の代替戦	
Rd.11	予選 Q1	P8 (A Gr) / 1'37.711	
	予選 Q2	-	
Rd.12	決勝	P16 / 1'40.955	
	予選 Q1	P5 (A Gr) / 1'36.884	
	予選 Q2	P11 / 1'36.745	
	決勝	DNF / 1'41.959	

Rd.11 & Rd.12 QUALIFYING

Rd.11 天候:晴れ/気温:13℃/路面温度:14℃

Rd.12 天候:晴れ/気温:16℃/路面温度:21℃

通常は、土日の各日で予選と決勝を行うが、今回は土曜日にRound11とRound12の予選を行った。今シーズンは予選で苦戦していた KDDI TGMGP TGR-DC だが、最終戦ではこれまで培ってきた経験が存分に発揮される。午前8時から始まったRound11予選では小高がBグループ5番手でQ2に進出し、今季ベストの10番グリッドを獲得した。続くRound12の予選では、野中がAグループ5番手で通過を果たし、11番グリッドを獲得。2台とも速さをみせた予選だった。



Rd.11 Race

Rd.11 天候:晴れ/気温:20℃/路面温度:26℃



27周で争われる予定だったRound11決勝だが、フォーメーションラップ中に小高の車両にトラブルが発生。スロットルが戻らない症状に見舞われてやむなくマシンを停車し、無念のリタイアとなった。これによりスタートが遅れ、1周減算の26周でレースが行われた。16番グリッドからスタートした野中だが、予選のような力強いペースを発揮することができず、16位のままでレース終了。翌日に向けて課題が残るレースとなった。

Rd.10 Race

Rd.10 天候:晴れ/気温:16℃/路面温度:20℃

10月の富士大会で濃霧によりキャンセルとなったRound10の代替戦。ピットストップ義務がない19周で争われた。グリッドは10月に実施した予選結果に基づき、小高は13番グリッド、野中は16番グリッドからスタート。順位アップを狙いたい小高だが、前日のレースを全く走れず、データの収集ができなかったことが影響して苦戦。なんとか踏みとどまろうとするも、ライバルの先行を許し16位でフィニッシュした。野中も同様にペースが上がらず、18位でレースを終えた。

Rd.12 Race

Rd.12 天候:晴れ/気温:17℃/路面温度:28℃

31周で争われた今シーズンの最終戦は、スタートから野中が好調な走りを披露。5周目には7番手に浮上した。さらにポジションを上げるべく、8周目でピットストップを決断。チームも大きなミスなく送り出し、さらにペースを上げていく予定だったが、10周目のAstemoシケインで前を走るライバルに仕掛けていったところで接触し、悔しいリタイアとなった。小高もペース良くポイント圏内を争う走りをみせたが、あと一歩及ばず11位でフィニッシュ。レース後は悔しい表情をみせていた。



28



予選でQ2に行けただけに、
決勝は悔しさが残ります。

ドライバー 小高 一斗

これまで積み重ねてきたものがようやく形になって、Round11でQ2に進出することができたのは良かったのですが、ベストグリッドのレースでフォーメーションラップ中にスロットル系のトラブルが発生して走れなくなったのは残念でした。ここでデータを取れなかったことが、日曜日にも響いたところは少なからずありました。スタートが良くてポジションを上げましたが、ペースが足りませんでした。午後のRound12でいくらか改善しましたが、ストレートスピードで分が悪く、ポイント圏内にいくことができませんでした。

29



Round12の仕上がりは、
今年一番でした。

ドライバー 野中 誠太

Round11ではレースペースに苦しみましたが、そこからセットアップを大きく変えて日曜日のRound10に臨みました。それでも決して良くはなかったのですが、兆しは見たので最後のRound12に向けては良い変更ができました。最後は今年一番のパフォーマンスがあったので、もったいない接触となりましたけど、今年苦戦しているなかで、クルマのパフォーマンスを引き出すことができたのは、今後に向けて良い経験になったと思います。



監督
片岡 龍也

これまで積み上げてきたものがやっと形になってきたところがあり、Round11と12で1人ずつQ2に進むことができました。ただ、Round11では小高選手が不運なトラブルに見舞われ、野中選手もペースが上がらないなか、Q1突破の上向きな気持ちから現実に戻されました。日曜日はそれぞれが改善して、野中選手に関してはRound12では入賞を狙えるペースで走っていましたが、接触でリタイアとなりましたが、今後に向けた方向性が確認できたレースだったので、来年につながる大会だったと思います。






TGR Driver Challenge Program











